

山梨県笛吹市

塚田遺跡

一宮北部地区畠地帯総合整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

山梨県峡東農務事務所

笛吹市教育委員会

序

笛吹市は甲府盆地中央部のやや東寄りに位置し、旧石器時代から中世にかけての遺跡が多数存在しており、山梨県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫として知られています。市内では、公共や民間による土木工事が活発に行われていますが、時にはこれらの開発が周知の埋蔵文化財包蔵地内にもおよぶことがあります。それに伴って各地で発掘調査が実施されています。

また、笛吹市は平成17年10月12日に「桃・ぶどう日本一の郷」を宣言するなど、日本有数の果樹地帯となっています。今回調査の原因となった畠地帯総合整備事業も一宮北部地区の農業振興に大きな役割を果たすことと思います。

さて、この調査報告書は平成20年に笛吹市教育委員会が試掘調査を行い、住居跡などが確認されたことから本調査を実施した県営畠地帯総合整備事業一宮北部地区の農道第19号改良工事に伴う発掘調査の結果を記したものです。

調査の結果、奈良・平安時代の住居跡や土器片を発見することができました。笛吹市一宮町地区は、国史跡の甲斐国分寺跡・国分尼寺跡をはじめとして、遺跡が濃密に分布している地域です。調査した塚田遺跡がある北野呂地区は、古代では甲斐国山梨郡能呂郷に含まれており、本報告書が当地域の歴史解明の一助となれば幸いです。

末筆ながら、調査実施にあたりご協力をいただいた関係機関並びに関係者各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成22年3月30日

笛吹市教育委員会

教育長 山 田 武 人

例　　言

1. 本書は山梨県笛吹市一宮町地内に所在する塙田遺跡に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は県営畠地帯総合整備事業（扱い手支授型）一宮北部地区の農道第19号改良工事に伴うもので、笛吹市教育委員会が山梨県県東農務事務所から委託されて実施した。調査費用はすべて事業者負担によるものである。
3. 発掘調査は平成20年12月24日から25日にかけて実施した。
4. 室内整理・報告書作成作業は平成21年8月6日より平成22年3月30日まで笛吹市教育委員会が実施した。
5. 発掘調査は笛吹市教育委員会文化財課、望月和幸が担当した。
6. 本報告書の執筆・編集は笛吹市教育委員会文化財課、鷹野義朗が行った。本報告書に掲載されている挿図・図版は笛吹市教育委員会文化財課、大木丈夫が担当した。
7. 本書における出土品および記録図面・写真等は笛吹市教育委員会が保管している。

調査組織

調査事務局	山田武人　(笛吹市教育委員会教育長)
	早川哲夫　(笛吹市教育委員会次長)
	中山孝仁　(笛吹市教育委員会文化財課長)
	伊藤修二　(笛吹市教育委員会文化財課調査担当リーダー)
調査担当者	望月和幸　(笛吹市教育委員会文化財課)
発掘調査作業員	荒川奈津江　荒川公子　矢崎　縁
室内整理作業員	藤原さつき　西山和子　高野眞寿美　小田切健吾

凡　　例

1. 本書第1図で使用している地図は、国土地理院発行の地形図「石和」(1:25,000)を使用し、第2図は国土地理院発行の地形図「石和」(1:10,000)を使用している。また、第2図で用いたスクリーントーンは中尾条巻の範囲を示している。
2. 掲載した遺構図面の縮尺は下記の通りである。
竪穴住居跡…1/60　カマド…1/30　土坑…1/30
3. 遺物実測図の縮尺は下記の通りである。
土器…1/3
4. 土層及び遺物の色調名は『新版 標準土色帳』26版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 小山忠正・竹原秀雄編・著 2004）によっている。
5. 表の大きさの（ ）は推定値を表す。

目 次

序 文

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

図版目次

表 目 次

第Ⅰ章	調査の経緯と概要	1
第Ⅱ章	遺跡の位置と環境	1
第1節	位置と地理的環境	2
第2節	歴史的環境	2
第Ⅲ章	調査の方法	4
第Ⅳ章	検出された遺構と遺物	5
第1節	竪穴住居跡[SI]	6
第2節	土坑[SK]・溝状遺構[SD]	7
第Ⅴ章	まとめ	10
写真図版		

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図	3
第3図	調査区位置図	4
第4図	調査区全図	5
第5図	S I 1・2号竪穴住居跡	6
第6図	S I 1出土土器	7
第7図	S K 1・2・3・4	8
第8図	S K 3出土土器	8
第9図	S D 1	9

図版目次

図版1	1. 遺跡調査前状況(北から) 2. 重機による掘削風景 3. S I 1・S I 2 検出状況(北から) 4. S I 1・S I 2 完掘状況(南から) 5. S I 1カマド検出状況 6. S I 1カマド完掘状況
図版2	7. SK 1 完掘状況(西から) 8. SK 2 完掘状況(東から) 9. SK 3 完掘状況(東から) 10. SK 4 完掘状況(東から) 11. SD 1 完掘状況(南から) 12. 調査区完掘近景(南から) 13. 出土土器

表 目 次

第1表	塙田遺跡出土土器観察表	9
-----	-------------	---

第Ⅰ章 調査の経緯と概要

今回報告する塚田遺跡の発掘調査は、山梨県東農務事務所が事業主体者となって行われた県営畠地帯総合整備事業(担い手支援型)一宮北部地区の農道第19号改良工事に先立ち実施されたものである。

市内で農道第19号改良工事が行われることになり、山梨県東農務事務所から施工区内の埋蔵文化財の所在について、笛吹市教育委員会に照会が行われた。そこで、市教育委員会では遺跡地図との照合を行い、施工区内が周知の埋蔵文化財包蔵地である塚田遺跡に所在していることを確認しその旨を回答した。

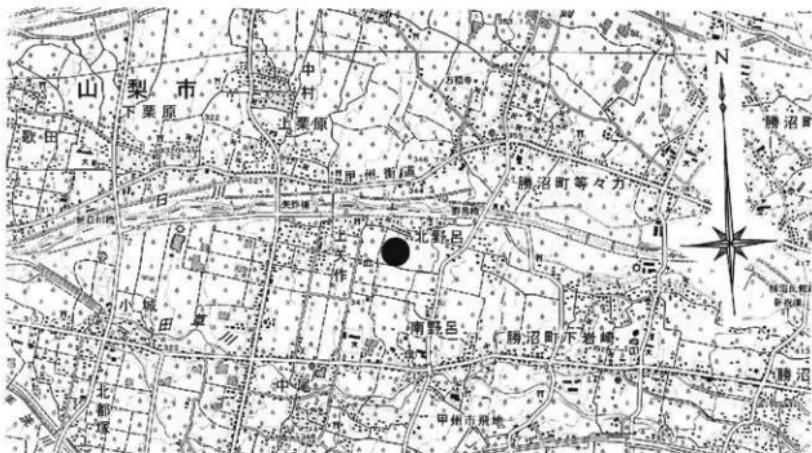
そのため、計画予定地内の埋蔵文化財の範囲ならびに深さを確認するために山梨県東農務事務所と協議し試掘調査を行うこととなった。平成20年12月9日～11日に農道拡幅部分幅1.5m長さ159mの約524m²を対象に試掘用トレンチを3本設定し調査を実施したところ、奈良・平安時代の竪穴住居跡1棟と土坑2基を確認した。

これを受け、山梨県東農務事務所と協議を行ったところ、農道拡幅部分で遺構が確認された位置を中心に記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成20年12月24日～25日に幅約1.5m長さ40mの約60m²範囲で実施し、その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡2棟、土坑4基、溝状遺構1条を検出した。

その後、他の遺跡の発掘調査や室内整理作業、調査報告書の作成等を行いながら断続的に出土遺物等の整理作業を行い、平成22年3月30日に調査報告書を刊行するに至った。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境



第1図 遺跡位置図 (S=1 : 25,000)

第1節 位置と地理的環境

山梨県笛吹市は、甲府盆地の中央部やや東寄りに位置し、北部の秩父山地へ続く山々及び東南部の御坂山塊に連なる丘陵山地帯と、笛吹川とその支流により形成された扇状地及び沖積平地帯で構成されている。本市域を最も特徴づけるのが、扇状地帯に広がる果樹栽培地帯であり、今日に至っては国内有数の果樹生産地帯となっている。

本遺跡が立地する笛吹市一宮町は笛吹市の北東部に位置しており、その面積の約半分を占める南東部の御坂山系を含む山地部及び大石川や京戸川によって形成された小規模な扇状地の急傾斜地と、金川や日川によって形成された大規模な扇状地が広がる比較的緩やかな地形の平地部に分けられる。

本遺跡は一宮町北部の北野呂地区に位置し、現在の日川から90m程南下した日川扇状地上の緩やかな傾斜面に立地している。日川は大菩薩峠付近に源を発し、甲府盆地東部を流下しており、甲州市大善寺の西付近を頂点として扇状地を形成している。

北野呂地区の西は甲州市勝沼町に接し、北は日川を境に山梨市、甲州市勝沼町と相接している。北野呂地区は日川の豊かな水量を活用し、早くから水田が開かれ、これに伴う集落が発達した。現在は気候が甲州市勝沼町地区に似通っていることもあり葡萄栽培が盛んに行われている。

第2節 歴史的環境

笛吹市には縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代を中心とした遺跡が濃密に分布し、複数の時代におよぶ遺跡が多い。

古代においては笛吹市内には甲斐国府・国衙推定地が存在し、笛吹市一宮町には甲斐国分僧寺と国分尼寺が存在し古代甲斐国の中核地であった。

そして、本遺跡が立地するこの地域は、「後名類聚抄」に記載されている山梨郡能呂郷に属していたと考えられている。山梨郡は甲斐国の中部から北部にかけて存在した。山梨郡のなかには10の郷があり、そのうち能呂郷は笛吹市一宮町北野呂・南野呂周辺から甲州市勝沼町南部にかけての一帯に指定されている。中世以降は「野呂」と書き、その遺称が今に残っている。北野呂の南側には中尾地区を中心とした中尾条里遺跡が広がっている。この条里は金川扇状地の扇端部付近から御手洗川（京戸川）及び日川扇状地にまで広く展開している。この条里遺跡からは弥生時代から古墳時代・奈良・平安時代・中・近世に至る集落および生産遺跡が発見されている。

また、この地区には豪族三枝氏が拠点を置き、その館が大宮神社付近にあったと伝えられており、神社の周辺には「東御所」「西御所」といった地名もある。三枝氏は、甲斐源氏制覇以前の甲斐の雄族で平安時代後期には在庁官人として活躍した。三枝守国開創伝説をもつ甲州市勝沼町柏尾の大善寺の寺伝によれば、承和年中（834～848）に守国が都から「甲斐国野呂郷」に配流となり、後に当地に落ち着き大善寺（甲州市勝沼町）を開いたという（大善寺文書）。

また、古代の能呂郷は甲州市勝沼町南部もふくまれるが、この周辺の奈良・平安時代の集落遺跡としては下岩崎東畠遺跡・下岩崎古墳毛遺跡・上岩崎大切遺跡・下岩崎天神堂遺跡がある。今回の発掘調査地から奈良・平安時代の遺構が検出されたことから能呂郷との関連が示唆される。



- 1. 塚田 2. 桜坪 3. 北宮海道 4. 中尾条里 5. 邪ヶ木田 6. 大原 7. 神ノ木 8. 貴位
- 9. 穴地蔵 10. 三枝氏屋敷 11. 宮田 12. 馬込 13. 地蔵窟 14. 妻神 15. 中尾地蔵窟
- 16. 早川氏屋敷 17. 西田北 18. 桜坪

第2図 周辺遺跡分布図 (S=1:10,000)

第Ⅲ章 調査の方法

発掘調査は、試掘調査の結果を受け農道拡幅部分で遺構が確認された位置を中心に行つた(第3図)。調査区は幅約1.5m、南北方向40mの約60m²の範囲と狭小な調査であった。

調査区内の表土の除去・掘削については重機を使用したが、遺構調査についてはすべて人力で行つた。

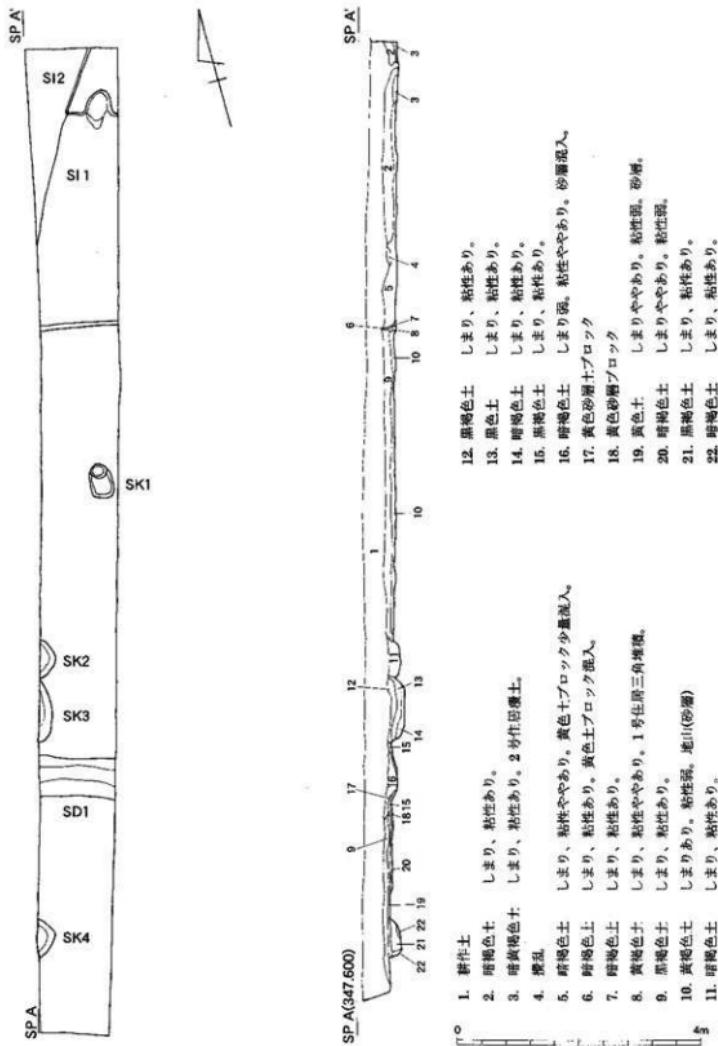
確認された遺構は、確認されたものから順次遺構番号を付して調査を行つてはいた。測量については平板測量と通り方測量を行つた。

遺物については、遺構内から出土した遺物は出土順に番号を付した。ただし、覆土中の小破片については各遺構一括出土遺物として扱つた。



第3図 調査区位置図 (S=1:250)

第IV章 検出された遺構と遺物



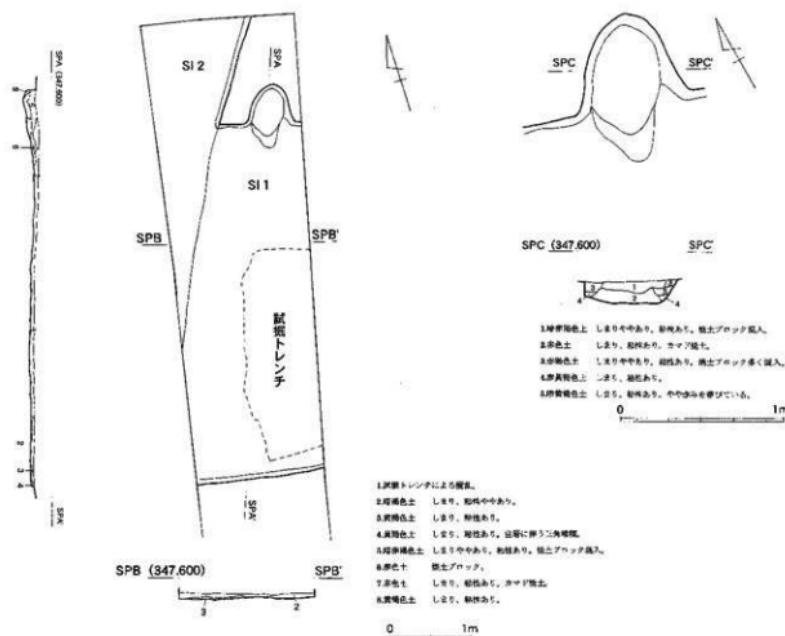
第4図 調査区全図

本遺跡における基本層序は、おおよそⅠ層：耕作土、Ⅱ層：耕作間違土層（黒褐色土）、Ⅲ層：暗褐色土（遺物包含層）、Ⅳ層：地山（砂質土）となる。今回の発掘調査では、奈良・平安時代の堅穴住居跡2棟、土坑4基、溝状造構1条が検出された。

第1節 堅穴住居跡[SI]

SI 1

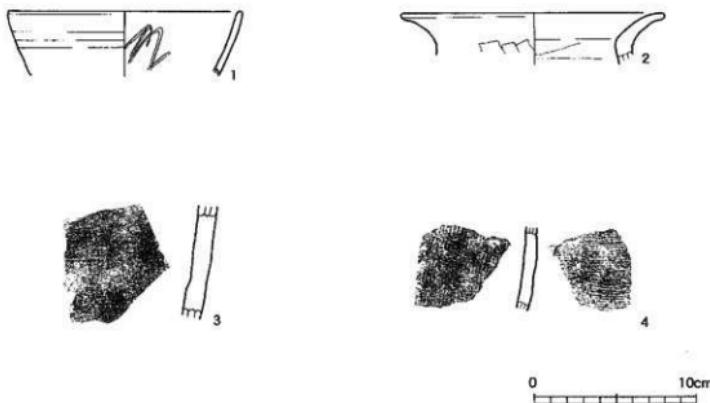
(位置) 調査区南北ラインの北端部分にて検出。(重複・遺存状況) 造構の東西は調査区外に延びている。またSI2と重複している。SI2に掘り込まれていることは明確だが、SI1・2との新旧関係は不明瞭。(形態・規模) 形態は東西の壁が調査区外に延びて不明瞭であるが、南北軸は5mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は不明。確認面からの深さは10cm程と浅く、床面は非常に脆弱で、わずかに硬化面が捉えられたのみである。(柱穴) 柱穴の確定までは至れなかった。(カマド) 北壁において検出。基底部の焼上のみの検出であった。(出土遺物) 混入土器も少なく、土師器片が少量確認された程度であった。8世紀前半代～中頃の壺の口縁部や甲斐型土器が出土している。他に土師器小片がいくつか出土しているが図示し得るものはなかった。(時期) 8世紀前半代～中頃。



第5図 SI 1・2号堅穴住居跡

SI 2

(位置) 調査区南北ラインの北端部分にて検出。(重複・遺存状況) SI1と重複している。ほとんどが調査区外に延びており、住居東側の一部が検出されたに過ぎない。(形態・規模) 一部検出のため不明瞭。(壁・壁溝・床面等) 残存状況は悪く、数センチ程度覆土が残るのみであった。(柱穴) 柱穴の確定までは至らなかった。(カマド) 調査範囲からは確認できなかった。(出土遺物) なし。(時期) 不明。



第6図 SI 1出土土器

第2節 土坑[SK]・溝状遺構[SD]

今回の調査で検出した土坑は4基である。また、溝状遺構が1条検出されている。しかし、ほとんどが部分的な検出のため、その全体像は不明で、用途・性格も不明である。

SK 1

(位置) SI 1南側地点。(形狀) 楕円形。ピット状の掘り込みがある。(長軸・短軸・深さcm) 70・50・20cm。(出土遺物) なし。(備考・時期) 時期不明。

SK 2

(位置) 調査区西壁に位置し、SK3と隣接している。(形狀) 円形か。(出土遺物) 土器小片が数点出土しているが図示し得るものはなかった。(備考・時期) 時期不明。

SK 3

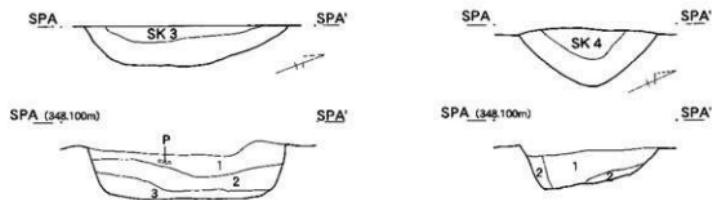
(位置) 調査区西壁に位置し、SK2と隣接している。(形狀) 楕円形か。(出土遺物) 繩文土器が一点のみ出土している。磨耗が激しいが三角押文が見られ縄文時代中期中葉の新道式に比定される。

SK 4

(位置) 調査区西壁に位置する。(形狀) 円形か。(出土遺物) なし。(備考・時期) 時期不明。



1.暗褐色土 しまり、粘性あり。

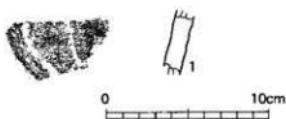


- 1.黒褐色土 しまり、粘性あり。
2.黒色土 しまり、粘性あり。
3.暗褐色土 しまり、粘性あり。

- 1.黒褐色土 しまり、粘性あり。
2.暗褐色土 しまり、粘性あり。

0 1m

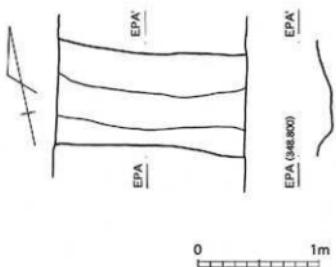
第7図 SK 1・2・3・4



第8図 SK 3出土土器

SD 1

(位置) 調査区南側に位置し東西方向に延びている。
 (形状) 断面形態は浅いナベ状を呈している。(出土遺物) 土器小片が数点出土しているが図示し得るものはないかった。(備考・時期) 時期不明。



第9図 SD 1

表1 塚田遺跡出土土器観察表

出土地	遺物 番号	種別 器種	大きさ(cm) ()=復元値	調整・施文・技法	胎土・焼成・色調	備考	
						口 高 底	内面一口クロナデ、 ミガキ・暗文
SI 1	1	土師器 壺	口 (7.1) 高 底	内面一口クロナデ、 ミガキ・暗文	密(白・黒色粒子・雲母) 良好 橙色	口縁~体部。	
SI 1	2	土師器 壺	口 高 底	内面一ナデ・ヘラケズリ 外面一ナデ・指頭痕	密(赤・白色粒子・金雲母) 良好 にぶい赤褐色	口縁部。	
SI 1	3	土師器 壺	口 高 底	内面一ナデ・ヘラケズリ 外面一継位ハケ調整。ナデ	密(白・黒色粒子・小礫・金雲母) 良好 内: 橙色 外: 褐色	胸部。 二次焼成を受ける。	
SI 1	4	土師器 壺	口 高 底	内面一横位ハケ調整。 外面一継位ハケ調整。	密(赤・白・黒色粒子・金雲母) 良好 にぶい赤褐色	胸部。	
SK 3	1	縄文 深鉢	口 高 底	外面一三角押文	密(黑色粒子・小礫・金雲母) 良好 茶褐色	磨耗激しい。 縄文時代中期中葉。	

第V章 まとめ

今回の調査地である塚田遺跡は笛吹市一宮町北部の北野呂地区の日川扇状地上の緩やかな傾斜面に立地している。

調査は部分的な調査であったために重複した住居は検出されたが、集落の広がりや遺構群の展開といった全体像を把握することはできなかった。また、砂層上に遺構が掘り込まれているため脆弱であり、竪穴住居の床に関してはわずかに硬化面が捉えられたのみで、土器の出土も少量であった。調査の結果としては竪穴住居跡2棟、十坑4基、溝状遺構1条が検出された。SI1は出土した土器により8世紀前半～中頃のものと考えられる。SI2はSI1を掘り込んで構築しているが、住居東側が一部確認できたのみで、出土土器もなく時期を判別することはできない。上坑に関してはほとんどが部分的な検出であり、SK3の覆土中で縄文時代中期中葉の上器が1点出土したのみで、用途や性格を判断するには至っていない。溝状遺構も検出されたが同じく部分的な検出であり、また現表層条里とは一致せずどのような性格であったかは不明瞭である。

しかし、今回の調査によって縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていた塚田遺跡で、8世紀代に比定される住居跡が確認されたことによって、この地に奈良時代の集落が展開されていることが明らかになった。

当地域は平安時代に編纂された『倭名類聚抄』によれば山梨郡能呂郷に比定されている。山梨郡は甲斐国の中部から北部にかけて存在した。現在の笛吹市の石和町、御坂町以北と甲州市・山梨市のはほぼ全城、および甲府市の濁川以東に当たる。『倭名類聚抄』によると、山梨郡には於曾・能呂・林部・井上・玉井・石禾・表門・山梨・加美・大野の郷名がみえる。うち先の5郷を山梨東郡、残りの5郷を山梨西郡としている。

東西いつ分けられたかは明らかではないが、律令的郡制が変貌し郡を東西や南北に分ける事例が多くなるのは一般には平安時代中期以降の現象である。しかし、6世紀末から7世紀初頭の群集墳も笛吹市春日居町の北東から北西にかけた山裾に分布する甲府盆地中央北部古墳群と笛吹市一宮町および御坂町、甲州市勝沼町にかけた扇状地上に分布する甲府盆地南東古墳群の二大群がみられ、立評期段階から二つに分けられる原因はあったと考えられている。

能呂郷については、笛吹市一宮町北野呂・南野呂周辺から甲州市勝沼町南部にかけての一帯が比定されている。また、地名の伝承はあるが、郷名記載の墨書き土器・刻書土器が発見されておらず、郷の範囲がどこまで及ぶか不明瞭である。この地域で奈良・平安時代の集落遺跡として知られている遺跡は甲州市の下岩崎東畠遺跡・下岩崎古墳毛遺跡・上岩崎大切遺跡・下岩崎天神堂遺跡がある。下岩崎東畠遺跡では、9世紀前半の竪穴住居2棟と10世紀前半の竪穴住居1棟、そして8世紀代と10世紀前半の掘立柱建物が1棟ずつ検出されている。下岩崎古墳毛遺跡では8世紀前半の竪穴住居2棟が検出されている。下岩崎天神堂遺跡では8世紀前半の竪穴住居1棟、10世紀後半の竪穴住居2棟、8世紀前半の掘立柱建物が1棟検出されている。上岩崎大切遺跡では、8世紀前半の竪穴住居1棟、9世紀後半の竪穴住居2棟、10世紀後半の竪穴住居5棟が検出されている。

つまり、竪穴住居や掘立柱建物が数棟発見されているのみで、玉井郷の大原遺跡や井上郷の姥塚・二之官遺跡のような中核をなす集落は発見されておらず、今後の資料増加に期待するところである。また、こういった中核をなす集落は当該地域の主要河川沿いに営まれ、それら各河川の水利と密接に関わっていると考えられており、塚田遺跡が日川沿いにあることからこの集落がどのような様相を呈していたか今後の調査に期待したい。

そして、塚田遺跡の南側には中尾地区を中心とした中尾条里遺跡が広がっている。中尾条里遺跡は日川左岸の沖積地にある弥生時代から古墳時代・奈良・平安時代・中・近世に至る集落および生産遺跡が発見されている。「ノロ」の地名語源については「ノラ」と同源で荒野を指すという解

釀があるが、他にも鉱石から鉄を精錬する際に出る鉄くず「鉄滓」を大和言葉では「ノロ」という。そして北野呂地区の西隣には矢作という地名がある。矢作とは、文字通り矢を製作することであり、古代には職能集団の「矢作部」が存在した。この地区にそういった職能集団が存在したことは確認できていないが、職人たちの集落が付近にあった可能性も考えられる。

また、今回の塚田遺跡の南方には古代三枝氏の氏神とされる大宮神社がある。甲斐国三枝氏の始祖を守国とする伝説があり、そのなかに、守国が都から「甲斐国野呂郷」に配流されたという記事があり、そして大宮神社が守国の大宮跡という伝えが残っている。三枝氏は甲斐源氏がまだ発展していない間、甲斐国、特に東郡地方に大きな勢力を張って平安時代後期には在庁官人として活躍した一族である。しかし、甲斐国では守国以前から三枝氏は存在したこととは判明しており、初見は『続日本後紀』承和11年(844)5月14日条に「三枝直平麻呂」が記載されている。つまり9世紀中頃には、すでに甲斐国内で三枝氏が存在していた。三枝氏と能呂郷との関係は不明瞭な点が多いが、三枝氏を考える上でも能呂郷は重要な場所であることは確実である。

能呂郷は古代甲斐国の集落様相を考える上で重要な地点ではあるが、不明な点が多いのが事実である。しかし、今回の発掘調査地である野呂地区から律令制段階の遺構が検出されたことから能呂郷との関連が示唆され、今後の集落様相解明の資料増加、そして周辺集落を考える上で役立つ資料を提示できたと思われる。

参考文献

- ・一宮町 1965 「一宮町誌」
- ・角川書店 1984 「角川日本地名大辞典 19 山梨県」
- ・平凡社 1995 「山梨県の地名」
- ・猪股喜彦 1996 「金川扇状地の土地開発－甲斐国分寺周辺の集落－」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第7集
- ・山梨県教育委員会ほか 1997 「古婦毛遺跡 県営勝沼团地建設に伴う発掘調査報告書」
- ・山梨県 1998 「山梨県史」資料編1 原始・古代1
- ・山梨県 2004 「山梨県史」通史編1 原始・古代
- ・山梨文化財研究所 2008 「天神堂遺跡 特別養護老人ホーム「ヒルズ勝沼」建設に伴う発掘調査報告書」

図版1



1. 造跡調査前状況(北から)



2. 重機による掘削風景



3. SI 1・SI 2 検出状況(北から)



4. SI 1・SI 2 完掘状況(南から)

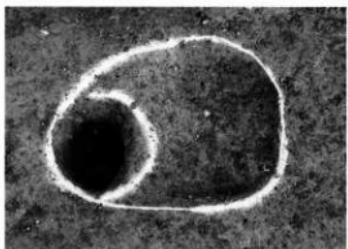


5. SI 1 カマド検出状況



6. SI 1 カマド完掘状況

図版2



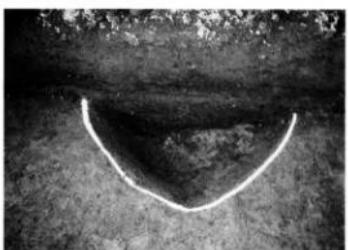
7. S K1完掘状況(西から)



8. S K2完掘状況(東から)



9. S K3完掘状況(東から)



10. S K4完掘状況(東から)



12. 調査区完掘近景(南から)



11. S D1完掘状況(南から)



13. 出土土器

報告書抄録

ふりがな	つかだいせき					
書名	塚田遺跡					
副書名	一宮北部地区烟地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第13集					
編著者名	望月和幸、鷹野義朗					
編集機関	笛吹市教育委員会					
所在地	〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1 TEL 055 (261) 3342					
発行年月日	2010年3月30日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	測地系 遺跡番号	北緯 東經	調査期間	調査面積 調査原因
つかだいせき 塚田遺跡	やまとしきんふくふくさし 山梨県笛吹市 いちののやぢとうきょうきたのゆ 一宮町北野呂 あがのむらひがしのやのろ 字塚田1182-1他	19201	2 35° 39' 43" 138° 42' 39"		2008.12.24 ~ 2008.12.25	約60m ² 一宮北部地区烟地帯総合整備事業に伴う農道改良工事
所収遺跡名 種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
塚田遺跡 集落跡	奈良時代 平安時代	堅穴住居跡 2棟 土坑 4基 溝状遺構 1条		土師器		

笛吹市文化財調査報告書 第13集

塚田遺跡

発行日 平成22年3月30日
発行 笛吹市教育委員会
印刷 株式会社 S P C
山梨県笛吹市石和町河内179

The Report of
Archaeological Research of TSUKADA Site

Archaeological Rescue Survey prior to
the Agricultural Multipurpose Land Development
in the North Ichinomiya Area.

March, 2010

Agricultural Department, Yamanashi Prefectural
Development Office of Kyoto Area
Fuefuki City Board of Education